

四週以内	京都市立京都病院	名古屋市立城東病院	計	百分率
五週以上				
計	三	二	四	一四・二九
				一〇〇・〇〇

第十表 「バラチフス」患者検査人員ニ對スル治癒後解熱後ノ病原體保有者

検査人員	病原體保有者	検査人員百ニ對スル病原體保有者
香川縣	一〇	三〇・〇〇
愛媛縣	二六	三九・二九
九大醫學部第二内科	二八	一三・七九
京都市立傳染病院	四八	五・三八
京都市立傳染病院	四〇	一〇・〇一
神戸市立傳染病院	九六	
計	二二	

第十一表 「バラチフス」患者治癒後解熱後ノ病原體保有者年齢別

年齢	神戸市立傳染病院	名古屋市立城東病院	計	百分率
二十歳迄	二	一	三	八・八二
三十歳迄	二	四	六	四七・〇六
四十歳迄	五	一	六	一七・六五
五十歳以上	三	二	五	一四・七一
計	一二	八	二〇	

總括

一、患者治癒後(解熱後)ノ糞健内菌排泄期間

(イ) 腸チフス患者二六九人ニ就テ見ルニ解熱後五日以内ニ菌ノ消失スルモノハ四%ニ過キサルモ五日以上五日以内ニハ二七%、十日以上十五日以内ニハ三〇%ニ及ビ、解熱後二十日(約三週間)ニシテ八〇%ハ消失ス

(ロ) 「バラチフス」患者一一〇人ニ於テモ腸チフスト殆ト同様ニシテ解熱後二十日間ニシテ約八〇%ハ消失ス

二、患者治癒後(解熱後)ノ尿中菌排泄期間

(イ) 腸チフス患者五九六人解熱後二週以内ニ尿中ヨリ菌ノ消失スル者最モ多ク約五〇%ニ達シ三週以内ニ消失スル者約六〇%以上ニ及フ、長期排菌ノ例トシテ十六週一例、十九週一例、二十週二例アリ

三、健康病原體保有者ノ發見後ニ於ケル菌排泄期間

腸チフス菌(健康保有者一六五人)中菌排泄期間ハ菌發見時ヨリ起算シテ九週ニ及ヘル者最長クシテ一例、一週以内ニ消失スル者約一七%、二週以内ニ消失スル者約一六%、五週、六週ニ至リテ消

失スル者尙一六%ヨリ一八%アリ

四、患者検査人員ニ對スル治癒後(解熱後)ノ病原體保有者

腸チフス患者ニアリテハ長野縣ノ檢出比例ヲ見ルニ一、〇六六人中其ノ約四九%ニ於テ解熱後病原體保有者ヲ認メ、陸軍省ノ調査ニテハ一、五六六人中其ノ約四三%、岡山縣ハ八八人中其ノ約五一%、九州帝國大學醫學部第二内科ニテハ三二三人中其ノ約四二%、北里研究所ニテハ五二人中其ノ約八二%ニ於テ病原體保有者ヲ認メタリ

「バラチフス」患者ニアリテハ九州帝國大學醫學部第二内科ニ於テ二八人中其ノ約三九%ニ於テ菌ヲ證明シ、京都市立傳染病院ニ於テハ四八六人中其ノ約一三%ニ之ヲ證明セリ

五、患者治癒後(解熱後)ノ病原體保有者年齢別

腸チフスニアリテハ十歳以上二十歳迄約三〇%、二十歳以上三十歳マテ約三一%ナリ、十歳以下及四十歳以上ハ少シ

「バラチフス」ニアリテモ十歳以上二十歳迄約四七%、二十歳以上三十歳マテ約一八%ニ當リ此ノ間ノ年齢ニ於テ最モ多シ

六、腸チフス(治癒後(解熱後)ノ病原體保有者男女別

三〇八人ニ就テ見ルニ男一六五人女一四三人ナリ即男子ニ於テ僅カニ多シ、排泄期間ニ於テハ大差ナシ

以上

第十 腸チフス豫防ニ關スル道廳府縣令訓令告示、通牒中特殊ナルモノ

腸チフス豫防ニ關スル施設ニシテ從來一般的ニ行ハレ居リタルモノノ外特殊ノ施設ト認ムヘキモノ少キモ別ニ擧ケタル病原體保有者取締ニ關スルモノ及傳染病院隔離病舎、自宅療養ニ關スルモノヲ除キテハ左ノ數項ヲ出テサルカ如シ

- 一、豫防接種ニ關スルモノ
 - 二、患者早期發見ニ關スルモノ
 - 三、煮沸水ノ供給ニ關スルモノ
 - 四、蠅ノ驅除ニ關スルモノ
 - 五、醫師ノ忠家ニ對スル消毒指示ニ關スルモノ
 - 六、河川ノ漁撈游泳禁止ニ關スルモノ
- 右ニ就キテ參考トナルヘキモノヲ記セハ左ノ如シ

一 豫防接種ニ關スルモノ

豫防接種ハ本病豫防上有效ナル一方法トシテ道廳府縣ニ於テハ訓令、通牒其ノ他ヲ以テ之カ奨勵ヲ爲スト同時ニ豫防液ヲ製造シ無償ニテ町村其他希望ノ向ハ配付スルモノ漸次増加スルニ至レリ、縣令ヲ以テ豫防液交付規程ヲ定メタルモノ一、二例ヲ示セハ左ノ如シ

豫防液交付規程例

第一例 岡山縣(大正十一年縣令第八十一號)

第一條 本縣ニ於テ傳染病豫防ノ目的ヲ以テ左ノ種類ノ豫防液ヲ豫算ノ範圍内ニ於テ無償交付ス

一、腸室扶斯ワクチン

二、虎列刺ワクチン

第二條 第一條ノ豫防液ノ交付ヲ受クルハ市町村トス

第三條 豫防液ノ交付ヲ受ケムトスル市町村ハ豫メ接種スヘキ人員ヲ調査シ附録第一號様式ニ依リ市ハ直ニ町村ハ郡役所又ハ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ請求スヘシ

第四條 豫防接種ヲ施行シタル市町村ハ附録第二號様式ノ臺帳ニ所要事項ヲ記入保存スヘシ

第五條 豫防接種施行ノ市町村ハ接種完了後直ニ其ノ人員並豫防液ノ殘餘ヲ調査シ報告書ヲ添へ縣知事ニ返納スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號様式)

何々豫防液交付申請

年 月 日

何郡何市町村長 氏 名 印

一、接種部落名

一、接種スヘキ人員

一、接種月日

第一回 月 日
第二回 月 日

(第二號様式)

大正 年

ワクチン接種臺帳

郡市町村

部落名氏	名	年齢	月日	注射量	反應	發病月日	轉歸月日	備	考
		歲	第 一 回 第 二 回	日 瓦 日 瓦	輕 強 無 中	月 日	月 日	(病勢局所 反應其他)	

反應調査標準

無 何等認ムヘキ反應ナキ者

輕 接種局處ニ腫脹其ノ他認ムヘキ反應ナク全身ニ輕度ノ倦怠ヲ覺ユル程度ニテ發熱著シカラサル者

中、接種局處ニ輕度ノ腫脹ヲ認ムルモノ或ハ三十八度前後ノ發熱アリ臥床二日以内ノ者

強、局處反應著シキモノ又ハ高度ノ熱發アリ臥床二日以上ニ亘ル者

第二例 新潟縣(大正十一年)新潟縣告示第二百三十九號
腸チフス豫防液無償交付規定

第一條 腸チフス豫防撲滅ノ目的ヲ以テ同豫防液ヲ製造シ無償ニテ之ヲ交付ス

第二條 前條豫防液ノ交付ヲ爲スハ市町村官公署公私立學校工場其他縣ニ於テ必要ト認メタルモノ

第三條 豫防液ノ交付ヲ受ケントスルモノハ豫メ注射スヘキ區域人員ヲ調査シ附錄第一號様式ニ依リ所轄警察官署ヲ經由シ知事ニ請求スヘシ

第四條 豫防液ノ交付ヲ受ケタルモノハ其使用方法ヲ遵守スヘシ

第五條 豫防注射ヲ施行シタルモノハ附錄第二號様式ノ報告書ヲ七日以内ニ所轄警察官署ヲ經由シ知事ニ提出スヘシ

第六條 豫防注射施行後豫防液ニ殘餘ヲ生シタル場合ハ返納書ヲ添ヘ速ヤカニ之ヲ警察部衛生課ニ送附スヘシ

第七條 豫防液ノ交付ヲ受ケタルモノ一ヶ月以上實施セス又ハ使用方法ヲ遵守セサル場合ハ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第一號様式

腸チフス豫防液請求書

注射人員	同上種別	注射豫定月日	場	所	注射醫師名
大人何人	小一學般兒童	第一回何月日	何々	小學校	何某
小人何人	何工場々	第二回何月日	何々	役場等	同
計何人					

右交付相成度此段及請求候也

大正 年 月 日

請求者官職 氏 名 印

知事宛

第二號様式

腸チフス豫防注射成績報告書

市町村字名	注射豫定人員	注射人員		計	備考
		第一回	第二回		

右及報告候也

大正 年 月 日

知事宛

市町村又ハ代表者名^印

一 患者ノ早期發見ニ關スルモノ

從來府縣ニ於テハ診斷液ヲ製造シ無償ニテ開業醫師ニ配布シツツアリシモノアリシカ、近來胆汁培養基ヲ配布シテ發病早期患者ノ病性決定ニ資スル府縣多キヲ加ヘ來リ、始メテ之ヲ施行シタル靜岡縣ノ例ヲ摘記スレハ左ノ如シ

靜岡縣(大正十年四月)
(衛法二三八五號各郡市醫師會長宛通牒)

膽汁培養基配布方ニ關スル件

腸室扶期ヲ初期ニ診斷シ適當ノ處置ヲ取ル事ハ治療上及豫防撲滅上最モ肝要ナル儀ニ有之候事ハ今更喋々ヲ要セサル次第ナルニ付テハ今回之カ一助トシテ「アンブール」胆汁培養基ヲ本廳ニ於テ製造シ御希望ニ應シ貴會ニ分與致シ置クヘクニ付貴會會員ニ右周知方御取計相成度此段及通牒候也

追而貴會ヨリ請求ノ際ハ荷造送料トシテ一本ニ付金參錢五厘添付相成度尙檢査成績ハ直ニ御通知可致申添候也

二 煮沸水ノ供給ニ關スルモノ

煮沸水ハ府縣ニ於テ隨時之カ使用ヲ獎勵シツツアリト雖訓令等ヲ以テ之カ規程ヲ爲セルモノハ極メテ尠シ、左ニ一例ヲ示サン

長野縣(明治四十年)
(訓令第一九號)

煮沸水使用法

第一條 消化器系傳染病患者發生シタルトキハ衛生組合又ハ市町村ヲシテ其部落ニ煮沸水ノ使用ヲ實行セシムヘシ

煮沸水ノ使用ニ就テハ市町村吏員豫防委員又ハ衛生組合ノ役員ヲシテ補助セシムヘシ

第二條 煮沸水使用ノ日數ハ患者發生シ之ヲ實行シタル日ヨリ起算シ十日間トシ又其期間ニ於テ患者發生シタルトキハ更ニ其當日ヨリ起算セシムヘシ

第三條 煮沸水使用ノ費途ハ左ノ區別ニ依ラシムヘシ

一 個人ノ自衛ニ一任シ實行シ得ヘキ土地ニ於テハ各自ノ負擔トス

二 前項ニ該當セサル土地ニアリテハ衛生組合ノ負擔トス

三 衛生組合ニ於テ十分ナル實行ヲ期シ難シト認ムルトキハ市町村ノ負擔トス

第四條 煮沸水ヲ使用セシムルトキハ豫メ其區域内ノ住民ニ對シ懇切ニ使用ノ目的及方法其他諸般ノ注意ヲ説示セシムヘシ

第五條 煮沸水ヲ供給スル場合ニ於テ之ヲ使用セサルモノアリト認ムルトキハ便宜ノ方法ニ依リ危險ノ虞アル飲料水ヲ遮斷又ハ封鎖セシムヘシ

第六條 煮沸水ハ左ニ記載セル總テノ使途ニ充テシムヘシ

- 一 飲料水、合嗽料、食物及飲食器具ノ洗滌料
- 二 洗面及手足ノ洗滌料

第七條 煮沸水ノ容器ハ總テ覆蓋ヲ設ケ柄杓ノ柄ハ水中ニ浸入セサルノ裝置ヲ爲シ容器ハ使用前煮沸水ヲ以テ洗滌セシムヘシ

第八條 柄杓ハ昆蟲又ハ塵芥等ノ附着ヲ防クノ裝置ヲ爲サシムヘシ

第九條 容器ハ荷桶柄杓等ハ總テ煮沸水用ト生水用トヲ區別スヘシ

第十條 衛生組合又ハ市町村ニ於テ煮沸水ヲ供給スルトキハ左ノ各項ニ依ラシムヘシ

- 一 水質、釜場ノ位置、釜ノ容量、配付戸數、人口等ノ調査ヲ爲スコト
- 二 釜場ニハ監督者ヲ置クコト
- 三 人夫ニハ清潔ナル被服ヲ着用セシムルコト
- 四 人夫ノ手ハ時々洗滌シ常ニ清潔ヲ保タシムルコト
- 五 煮沸ハ攝氏百度以上トシ尙三十分以上沸騰セシムルコト
- 六 煮沸水供給ノ最低標準ハ一日一人ニ付五升トスルコト
- 七 交通遮斷區域内ニハ人夫ヲ入ラシメサルコト

第十一條 煮沸水使用ノ監督ハ市町村吏員豫防委員又ハ衛生組合員ヲシテ毎日一回以上其區域内ノ各戸ニ就キ左ノ事項ヲ注意セシムヘシ

- 一 煮沸水供給ノ過不足
- 二 煮沸水使用ノ適否

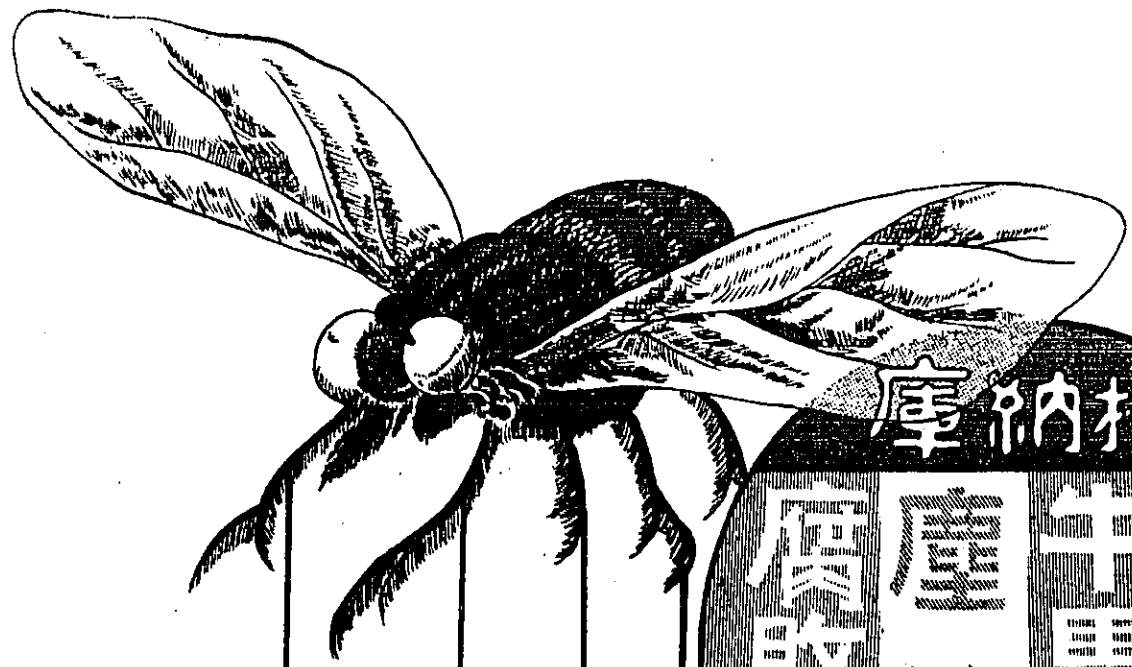
三 生水使用ノ有無

四 其ノ他ノ事項ニ關スルモノ

蠅蠅除獎勵ニ關スルモノ、醫師ノ忠家ニ對スル消毒指示ニ關スルモノ及河川ノ漁撈游泳禁止ニ關スルモノ等アルモ右ノ中靜岡縣ノ清潔方法施行時蠅蠅蟲存在部ノ土壤燒却方獎勵通牒(大正九年四月)富山縣ノ漁撈游泳禁止ニ關スル縣令(大正二年六月)アルノ外特ニ記スヘキモノナシ

第十一 腸チフス豫防ニ關スル道廳府縣ノ宣傳「ビラ」、豫防心得等

腸チフス豫防ニ關スル宣傳「ビラ」、豫防心得等ノ印刷配布ハ道廳府縣、警察官署、町村役場、其ノ他公共團體ニ於テ之ヲ爲シ之カ内容體裁等煩簡一様ナラス各地方民情ニ應シ相當ノ特點ヲ認ムルモノアリ、參考ノ爲一、二例ヲ採録セン



格納庫

便所
牛馬小屋
塵捨場
廢敗物

肺病

赤痢

チブス

コレラ



著陸場

ハイライト

蠅ハ傳染病ノ飛行機ナリ

蠅取日ヲ定メテ

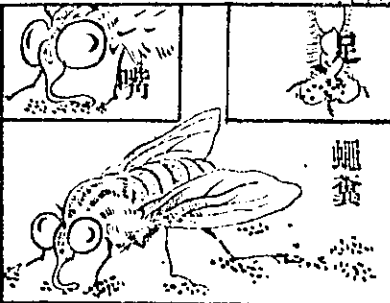
蠅ヲ全滅スルコト

蠅ノ駆除ニハ
公費三分ノ一
補助アリ

蠅！ 蠅！ 蠅！

恐ルベキ蠅！

- 1、蠅ハ生命ヲ視フ悪魔、微菌ノ飛行機ナリ。
- 2、一匹ノ蠅ノ體ニ廿五萬以上ノ微菌ヲ荷フ
- 3、蠅ノ體カラコレラ菌、赤痢菌、チフス菌、結核菌カ屢々見ツカル。
- 4、蠅ノ手足ハ大便ヤ汚物ヲ墜リ歩ク小サナ鏡ナリ。
- 5、便ヤ痰ヲ舐タ蠅ノ腹カラ出ル糞ニハ微菌ハ五六日間活タ儘ニ出ル。
- 6、使所ノ蠅ハ無斷デ膳ノ上ニ座リ人様ヨリ御先ニ食物ヲ失敬スル。
- 7、蠅ト疫病神ハ常ニ同行シテ不潔ナ家ヲ訪問ス。
- 8、ゴマノ輩ハ財ヲ視ヒ家蠅ハ生命ヲ視フ。

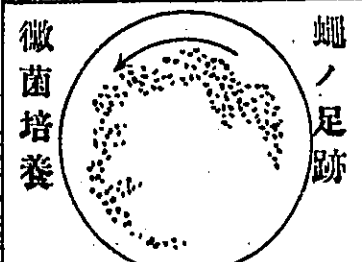


蠅ノ境涯！

- 1、蠅ハ種々ノ塵芥、汚物、使所ノ中デ生活シ子孫ヲ繁殖ス。
- 2、一匹ノ雌ハ一回ニ百五十卵ヲ産ミ卵ハ十日位デ成蟲シ一夏ニ孫彦十餘代繁殖ス。
- 3、馬糞ハ彼等ノ樂園、大便ヤ腐敗物ハ彼等ノ大好物ナリ。
- 4、蠅ハ一飛ニ百五十間時々無斷デ人馬ニ乘リ無賃乗車デ百里モ旅行ス。
- 5、蠅ハ食後一時間ニ十回以上脱糞ス、蠅ノ糞ヤ蠅ノ手足ヲ通ジテ他人ノ便ヲ舐メテ居ル人ハナイカ。
- 6、蠅ハ卵ヤ蛹で年ヲ越シ温カイ地方ハ成蟲ノ儘デ冬ヲ越ス。

蠅ノ驅除！

- 1、蠅ヲ殺スヨリモ卵ヤ蛆、蠅ノ内ニ殺ノガ近途デ容易イ。
- 2、一握ノ塵ニ三百ノ蛆ト蛹一尺四方ノ塵土カラ二萬匹餘ノ蠅ガ出ル。
- 3、一升ノ塵ヲ片付レバ二千匹以上ノ蠅ヲ片付タト同ジ。
- 4、塵箱ニ蓋ヲセヨ、塵芥ヲ片付ヨ、塵土ニ石炭ヲ振レ、石油乳劑ヲ撒ケ。
- 5、「ホルマリン」ト酢ヤ牛乳ヲ混タノハ好ク紙メ死ス。
- 6、高價ナ蠅取機モ夏期生命保険金デアル。
- 7、蠅除ラセメ飲食店ニ拂金ハ葬式費ノ前渡カ！
- 8、衛生ト防疫ハ水ノ注意ト蠅驅除カラ始メ！



附 錄

腸チフスニ關スル復命書拔萃

本編ハ衛生局防疫職員ヲ數府縣ニ派シ腸チフス發生狀況竝ニ之カ豫防施設ニ付調査セシメタル復命書ヨリ拔萃セルモノナリ

第一 京 都 府 (大正十年十月調査)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往十ヶ年ニ於ケル發生狀況

患者ハ年々其ノ數ヲ増シ殊ニ大正七年以來増加著明ナリトス

人口ニ對スル患者數ニ付テ見ルニ、大正七年以來ハ人口萬ニ對シ十二人以上ヲ示シ各年毎ニ於ケル全國平均比例ヨリモ遙ニ高位ニアリ、其ノ他ノ年ニ於テモ大正元年ヲ除キテハ全國平均比例ニ比シ超過シ居レリ

二、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル市郡別ノ流行狀況

京都市ハ大正七年ニ於テハ人口萬ニ對シ十八人餘ナリシカ大正八年以降漸次減少ヲ見タリ、郡部ニ於テハ乙訓、紀伊ノ兩郡ニ在リテハ大正七年以降人口萬ニ對シ十人以上ニシテ逐年異常ノ増加ヲ見、愛宕、葛野、久世ノ各郡亦人口萬ニ對シ十人以上ニシテ大正七年以降各年非常ノ増減ヲ

リ、殊ニ愛宕郡ノ如キハ大正七年人口萬ニ對シ五十三人ヲ發生シ次年ニ於テ約半數ニ減シ同九年ニ四十八以上ヲ示セリ、竹野、相樂ノ二郡ハ大正九年ニ於テ前年ニ比シ著シク多數ヲ出セリ、熊野郡ニ於テハ大正七、八年ニ於テ皆無大正九年ニ至リテ患者僅ニ二名ヲ出シタルノミ、其ノ他ノ郡ニ在リテハ大ナル増減ヲ見ス、要之郡部ニ於ケル主要ナル流行ハ京都市ヲ中心トシテ之レヲ圍繞セル愛宕郡、葛野郡、紀伊郡及乙訓郡ニアリトス

三、大正九年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル主要流行町村

京都市ニ於ケル主タル流行區域ハ概ネ一局部ニ介在シ年々同區域ヨリ多數ノ患者ヲ發生シ居レリ

京都市以外ノ地ニシテ流行町村ノ局在セル地ハ主トシテ京都市ニ接續セル町村ニシテ此等ノ町村ニ在リテハ年々執拗ニ流行ヲ繰リ返シツツアリ

四、今年(大正十年)ニ於ケル流行狀況

九月末日迄ニ患者千四百〇一人ニシテ昨年同期ノ千三百二十六人ナリシニ比スレハ稍々増加シ居レリ、而シテ此増加ノ主タルハ市部ニシテ郡部ニ於テハ寧ロ減少ヲ示セリ

五、一般法定傳染病患者發生狀況

一般法定傳染病患者ノ最近三ケ年ニ於ケル發生總數ハ年々三千人内外ニシテ腸チフスハ其ノ五三%乃至五七%即チ約半數ヲ占ム

二、豫防施設

一、患者早期發見方法

檢病調査ハ衛生組合等ノ援助ニヨリ勵行シ居レリト云フモ、三地方ニ就キ實際ヲ調査スルニ充分ナリト認メ難キカ如ク効果亦顯ハレ居ラス、腸チフスノ疑似症ニ對シテハ法ノ適用ナキモ市及其ノ隣接町村ニテハ防疫協議會ヲ開催シ本病ニ疑ハシキ症狀ヲ有スル者ハ注意患者トシテ取扱フコトニ申合セ注意患者ハ内々通報シ消毒方法ヲモ指示スルコトトナシ居レリト其ノ他特殊ノ方法トシテハ警察官ニシテ患者ヲ早期ニ發見セルモノアルトキハ賞與金ヲ與ヘ居レルコト是ナリ

二、材料検査ノ狀況

細菌検査所ハ府ニ一ヶ所、市ニ一ヶ所及舞鶴傳染病院ニ小規模ナルモ細菌検査室ヲ有ス、本府ニ於ケル細菌検査件數ハ相當多數ニ上リ居レリ

三、病原體保有者ノ取締

患者治癒後ノ者ニ對シテ市部ハ解熱後細菌検査ノ結果二回連續陰性ナル時退院セシム郡部ハ解熱後二週間ニシテ退院退舍セシム、但舞鶴町ハ京都市ト同様取締ヲ爲セリ
治癒後ノ病原體保有者以外ノ者ハ入院又ハ入舍セシメス、單ニ便所手洗等ニ注意セシムルニ過キスト云フ

四、消毒所、消毒班ノ設置

京都市ニハ傳染病院内ニ相當設備アル所謂消毒所ヲ有ス、消毒班ノ設置ナシ
五、療養隔離ノ狀況

患者ハ重症止ムヲ得サルモノノ外ハ總テ入院入舍ヲ命シ居レリト云フ、大正九年度ニ於テ自宅

療養ヲ爲セルモノハ總患者數ノ約十七分ノ一ニ過キス、右自宅療養患者ノ死亡率ハ五〇%ナリ
シニ入院入舎セルモノノ死亡率ハ一九%ニ過キサリキ、右ハ主トシテ自宅療養患者ノ多クカ重
症者ナリシニ因ルヘシ

六、飲料水、家用下水ノ改良狀況

上水道ノ敷設シアルハ京都市ノ外、與謝郡宮津町、中郡峯山町ノ二ヶ所アルノミ

下水道ノ設置アル町村ハ何鹿郡繞部町、加佐郡中舞鶴町及同郡新舞鶴町ノ三ヶ所ナリ

七、豫防接種施行ノ狀況

比較的良好ク勵行セラレツツアリ

八、蠅驅除ノ狀況

特ニ之カ宣傳ヲ爲シテ驅除ノ勵行ヲ爲サシメ且一部町村役場衛生組合等ニテハ石油乳劑ヲ購
入シ一般ニ使用セシメタルモノアリ

九、豫防智識ノ涵養方法

衛生講話會、衛生講習會等相當盡カシツツアルモ一部ニ限ラレ一般的ニハ蠅驅除宣傳、ビラヲ
配布セル外特殊ノ企ヲ見ス

十、傳染病豫防費

大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル狀況左ノ如シ

年度別	種別	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正七年	度	六二、二九一・四二〇	一〇、二一五・二二〇	
大正八年	度	一三〇、〇一九・三〇〇	二一、六六九・八七〇	
大正九年	度	一一八、六四一・二二〇	一九、七七三・五三〇	

十一、傳染病院、隔離病舎等ノ設置及管理ノ狀況

事情ノ許ス限り多數町村ニテ組合組織ニ依リテ設置セシメントス、出來得ル限り完全ナルモノ
ヲ建設スルハ入院入舎ヲ嫌忌スル者ヲ尠カラシメ、延ヒテハ防疫上著シキ効果アルヘキヲ以テ
之レヲ獎勵シ、工費ノ三分ノ一乃至二分ノ一ヲ府費ヲ以テ補助シツツアリ、相當設備ノ完備セル
モノ多數アリ

十二、傳染病院、隔離病舎ニ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徵收狀況

全部市町村ノ負擔トス

十三、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

上下水道ノ敷設ヲ獎勵シ、飲料水改良ニ努メ豫防注射ヲ一層勵行セシムヘント云フ

第二 山梨縣 (大正十年九月調査)

一、患者發生狀況

一大正九年ニ終ル既往十ヶ年ニ於ケル發生狀況

人口萬ニ對スル患者發生率ヲ全國ノ其ニ比スルニ概シテ高シ、即チ年ニヨリ異ルモ低キハ約二
分ノ一強(大正七年^{本縣}三・六三、^{全國}八・〇八)ヨリ高キハ約二倍二分ノ一(大正九年^{本縣}二五・六〇、^{全國}九・八五)ニ達シ、十ヶ年ヲ

通シテハ平均約二分の一(本縣 一〇・四二)高シ大正九年ニ患者發生率著シク高カリシハ主トシテ南都留郡ニ於テ爆發的流行アリシニ因ル
本縣腸チフス患者ノ死亡率著シク低ク即チ上記十ヶ年總計患者ノ死亡率ハ全國二〇・五八%ナルニ本縣ハ一五・七八%ナリ

二大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル市郡別流行狀況

南都留郡ハ富士山ノ北麓ニ位シ縣下甲斐絹ノ主要ナル一產地ナルカ大正七年患者六五名同八年一九九名同九年ニハ一躍シテ九七二名即チ郡人口萬ニ對シ約百四十名ヲ出セリ蓋シ同郡ハ到處流水ニ富ミ是カ飲使用頗ル便ニシテ甲斐絹ノ製織ニ水カヲ利用スルモノ亦多シ傳染病ノ蔓延ノ如キ右流水ノ飲使用ニ關係スルモノ多ク這般ノ劇發ノ如キ實ニ右流水多ク汚染サレタルト折柄霖雨ノ爲一部地方之カ氾濫ヲ來セルトニ基ケルモノナリ
其ノ他特記スヘキ流行市郡ナシ

三大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル主要流行町村

(一)南都留郡谷村町

同町ハ郡ノ北部ニ位シ戸數一、三八〇、人口七、七一〇ヲ有スル郡内第一ノ都會ニシテ甲斐絹ノ製織盛ニシテ且其ノ集散地ナリ而シテ甲斐絹ノ製織ニ水カヲ利用スルコト多キ關係等ニ依リ桂川ヨリノ支流ハ町内ニ分流シ之カ飲使用頗ル便ナリ
本町ニ於ケル腸チフスノ流行ハ左表ノ如ク年々多少之カ發生ヲ見サルハ無ク殊ニ大正九年ノ如キ實ニ患者三一七名ヲ出シ人口萬ニ付四百餘名ニ當レリ之カ發生狀況ヲ見ルニ一月ヨ

リ六月迄ハ發生患者僅カニ二三人ニ過キサリシニ七月ニ至リ連日ノ降雨ニ因リ流水氾濫シ病毒ノ散蔓セル爲ニ患者ヲ續發スルコト同月中實ニ一六八名ノ多キニ達セリ其ノ後豫防措置漸ク其ノ緒ニ就キ漸次發生減退シタルモ終ニ同年中患者三一七名ヲ數フルニ至ルモノナリ
抑モ同町ニ於ケル年々患者發生ノ原因ハ主トシテ最飲使用ニ利便ナル流水何處カニ於テ病原體保有者等ニ依リ汚染セラルルニ因ルコト最多カルヘク大正九年ニ於テハ會々大雨ニ際シ流水氾濫シ病毒ノ散蔓セル爲終ニ爆發的發生ヲ見ルニ至レルモノト認メラル
同町ニ於ケル腸チフス豫防ノ爲大正九年中ニ要セシ町費傳染病豫防費ハ實ニ約一萬六千圓一戸當リ約四十五圓ニ當レリ蓋シ同町ハ連年腸チフス流行ニ鑑ミ既ニ大正六年中ニ上水道敷設ノ計劃ヲ樹テタルモ種々ナル事情上大正十年ニ至リテ漸ク之カ認可ヲ得總工費約二十五萬圓ヲ投シテ其ノ敷設ニ着手スルニ至レルモノニシテ之カ竣工ノ曉ニ於テハ防疫上必ス相當顯著ナル効果アルヘキハ疑ヒナキ處トス
既往ニ於ケル谷村町腸チフス患死者表

年 別	患 者	死 者	年 別	患 者	死 者
明治四十四年	二六	二	大正五年	一〇七	二二
大正元年	九	二	同 六年	三	一
同 二年	四	一	同 七年	一八	三
同 三年	八	一	同 八年	六四	一八
同 四年	一六	二	同 九年	三一七	三五

(一)同郡瑞穂村
(二)同郡福地村

大正九年中前者ハ患者二二八名後者ハ患者一二〇名ヲ出セルカ土地ノ状況産業状態延ヒテハ腸チフス流行ノ原因等前記谷村町ト略同一ナリ

二 豫防施設

一、患者早期發見方法

檢病的戸口調査健康診断ハ明治四十一年以降毎年六月ヨリ十月ニ至ル期間特ニ勵行セシメ居リシモ更ニ大正十年七月ヨリ患者發生附近部落ニ對シテハ隔日ニ檢病調査ヲ又每週一回健康診斷ヲ行ハシムルコトトセリト云フモ二三地方ニ就テ實地調査スルニ十分ナリト認メ難シ明治四十二年以降醫師會ニ對シ注意患者通報方ヲ協定シアルモ其ノ成績見ルヘキモノ尠カリシヲ以テ大正五年本病疑似症ニ對シ法ノ一部ヲ適用スルコトトセリ又開業醫師ニ對シ膽汁培養器ヲ配付シ其ノ他檢査材料送附ノ勵行ヲ爲シツツアリ

二、材料檢査ノ狀況

膽汁培養器ノ配布ハ大正十年六月以降之ヲ爲シツツアルモ之カ利用極メテ尠シ然レトモ醫師ヨリ「ツイダール」反應又ハ糞便檢査ヲ依頼シ來ルモノハ全患者ノ約三分ノ一ニ及ヘリ此種ノ細菌檢査機關ハ縣廳内ニ一アルノミナリ

三、病原體保有者ノ取締

大正十年五、六月中移動性細菌檢査班ヲ組織シテ年々患者發生ヲ見シ一、二町村ニ對シ病原體保

有者ノ檢査ヲ爲シテ相當成績ヲ擧ケタル外患者治癒後ノモノ其ノ他ニ對シ病原體保有者ノ檢査ヲ爲セルコトナシ單ニ治癒後ノ者ニ對シ三週間上圖ノ都度便池ニ消毒藥ヲ灌カシムト云フノミ

四、消毒所消毒班ノ設置

甲府市ニハ大正五年以降消毒所及消毒班ノ設置アリテ相當設備ヲ有ス其ノ消毒件數大正八年六〇二、大正九年一、一六七ナリ

五、療養隔離ノ狀況

患者ハ病院病舎へ收容スルヲ原則トスルモ一定條件ヲ具フルモノニ對シテハ自宅療養ヲ許シツツアリ收容及自宅ノ割合ハ全國平均ノ其レト略同シ

六、飲料水、家用水、下水ノ改良狀況

本縣ハ四圍山嶽重疊シ中央僅ニ平地ヲ有スルノミニシテ爲ニ清例ナル流水ニ富ミ之カ飲使用頗ル便利ナルヲ以テ流水汚染サルルコトアランカ其ノ下流域域ニ於ケル慘害ノ計ルヘカラサルモノアリ茲ヲ以テ縣當局ハ明治三十九年一月縣令ヲ以テ工費ヲ補助スルコトトシ水道又ハ共同井戸ノ設置改良ヲ獎勵シツツアリ右ニ依リ敷設セル簡易水道數ハ五十一ニ及ヘリ共同井戸亦相當多數ノ新設改善ヲ見ツツアリ尙機業地ニシテ流水ヲ使用セサルヘカラサル地方ニアリテハ簡易水道ヲ敷設スルト共ニ現在ノ流水ヲ必要ナル部分ヲ除キ出來得ル限り暗渠トスルヲ可ナリト思惟ス

水道條例ニ基キテ上水道ヲ敷設セルハ甲府市、上野原、大月、猿橋ノ四ヶ所、工事中ノモノ谷村町一

アリ、甲府市上水道ノ敷設ハ大正二年ナリシカ大正六年ニ於ケル給水人口ハ市民ノ約八割ニシテ人口萬ニ對スル腸チフス患者ノ發生率ハ敷設前ニ比シ約三分ノ一以下トナレリ

七、豫防接種施行ノ狀況

一部落又ハ個人的ニ相當施行セラレ居ルカ如キモ、其ノ實績ノ微スヘキモノナシ

八、蠅驅除ノ狀況

本年七月ヨリ九月ニ至ル期間、北巨摩郡内十五ヶ町村衛生組合ニ於テ蠅驅除ヲ勵行シ、約二石四斗ヲ驅除セリト云フ

九、豫防智識ノ涵養方法

年々衛生展覽會費二〇〇圓ヲ計上シ之ヲ模型其ノ他材料ノ購入費ニ充ツ、材料ハ隨時希望町村又ハ青年會ニ貸與シツツアルモ概シテ不振ナリ

本年七月腸チフス豫防唱歌ヲ記セルモノ五萬枚ヲ印刷シ小學兒童ニ配付セリ

十、傳染病豫防費

大正九年度ニ終ル既往三ヶ年間ニ於ケル狀況左ノ如シ

年度別	種別	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正七年度		七、八九八・四七	一、三一六・三九	
大正八年度		六、一一〇・〇三	一、〇一八・八二	
大正九年度		一六、八二一・一三	二、八〇三・五二	本年度傳染病豫防費ノ著シク多額トナレルハ前年ニ比シ一般傳染病多發シタルニ依ル腸チフスノ如キモノ約三倍ノ發生ヲ見タリ

十一、傳染病院、隔離病舎設置ノ狀況

市町村數二四四中傳染病院、隔離病舎ヲ有セル市町村數一六九ナルモ腐朽ノ爲實際使用シ得サルモノ甚カラサルカ如シ

十二、傳染病院、隔離病舎ニ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徵收狀況

全市町村中約九割ハ之ヲ徵收シツツアリ、其ノ額ハ大人食費五十錢、藥價四十錢、小人ハ各其ノ半額ヲ標準トセリ

十三、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

細菌検査機關ノ擴張ヲ計リ病原體保有者ノ檢索ニ努メントス

第三 宮 城 縣 (大正十年八月調査)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル郡市別流行狀況

仙臺市ハ飲料水改良未タ其ノ緒ニ就カス、從テ井戸ノ共用ニ依リ、毎年部分的ノ流行ヲ來セリ、郡部ニアリテハ仙南、柴田、名取、刈田ノ四郡ハ主トシテ河川水ノ使用ニヨリ、毎年部落的流行ヲ見ルヲ遺憾トス

二、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル主要流行町村

柴田郡村田町ハ大正八年夏期約一箇月間餘ニ二百四十四名ノ患者ヲ出セル事例アリ、之カ原因ヲ釋スルニ同町ノ道路兩側ニハ溝渠ノ流水アリ、町民之カ危險ヲ顧ミスシテ食器其ノ他ノ洗滌

ニ使用シタルニ因レリ流水使用ノ風習ヲ改メ簡易水道ノ敷設ヲ獎勵セリ
其ノ他同年同郡大河原町、同郡槻木町、志田郡高倉町、同郡三本木町、大正九年杜鹿郡石卷町ニ各數十名宛ノ患者發生アリ、是等流行ノ多クモ亦流水ノ飲使用ニ原因セルヲ見タリ

二 豫防施設

一 患者早期發見方法

毎年六月ヨリ十月ニ至ル間特ニ檢病的戸口調査ヲ爲サシム、衛生組合ヲ活動セシメ五人組ヲ設ケ又部落毎ニ衛生投書函ヲ設置シ以テ不審患者ヲ申告セシメ又秘密申告ノ便ヲ計レリ
又豫メ醫師會ト協定シ五日以上持續スル原因不明ノ熱性患者アルトキハ内報ヲ受ケ、藥種商、賣藥商、祈禱師等ノ内偵ヲ密ニシ、一面學校ト連絡ヲ保チ兒童竝ニ其ノ家族ノ狀況ヲ探知スルノ方法ヲ講セリ

其ノ他各方面ニ對シ早期發見方法ヲ劃策シツツアリ

二 材料検査ノ狀況

縣細菌検査所一アリテ相當設備ヲ有ス、糞便、血液、發泡液、喀痰、寄生蟲卵等ヲ検査セリ

三 消毒所消毒班ノ設置

消毒所ハ仙臺市ニ一アリ、明治二十七年縣ニ於テ設置セシモノナルモ大正四年中無償ニテ市ニ交附セルモノナリ、毎月五日、毎月六日、毎月六日ニ時日ヲ限定シテ消毒ヲ施行シツツアリ
消毒班ノ設置ナシ

四 療養隔離ノ狀況

市ハ傳染病院ヲ有セルモ患者少數ノ場合ハ私立病院ニ依託シ患者多數發生ノ場合ノミ之ヲ開設ス、町村ニアリテハ約半數(町村數二〇五病舎數一一七)ハ病院病舎ヲ有ス、毎年郡部總患者ノ約七〇%收容シツツアリ

五 飲料水、家用地下水ノ改良狀況

井戸ノ改良、修理、水質検査、簡易水道ノ敷設等専ラ上水、地下水ノ改良ニ努メツツアリト雖未タ理想ヲ實現セシムル能ハス、河川水ノ使用ヲ禁シ能ハサル町村ニ對シテハ濾過裝置ヲ獎勵ス

六 豫防接種施行ノ狀況

大正五年以降縣ニ於テ豫防液ヲ製造シ流行町村ニ無償交附シ豫防接種ヲ獎勵シツツアリ、近年益接種數増加ノ傾アルハ喜フヘシ

七 蠅ノ驅除其ノ他豫防智識ノ涵養方法

「ピラ」ホスター、通牒等主トシテ蠅ノ驅除宣傳ニ努メ、豫防智識涵養ニ關シテハ時機ヲ計リ各地ニ幻燈會、展覽會、活動寫真會、講話會、講習會ヲ開催シ専ラ衛生思想ノ喚起、向上ノ方法ヲ劃策シツツアルカ如シ

八 傳染病豫防法令ニ關スル特殊縣令、訓令、通牒等中特殊ナリト認ムヘキモノ左ノ如シ

(一) 厠間、芥溜、下水取締規則(明治二十八年 縣令第一九號)

内容 市街地宅地内ニアル厠間、芥溜、下水等ニ對シ其ノ新設、改造ニ當リ一定ノ方法、方針ヲ示シ又其ノ着手前及竣工後ハ警察官署ヘ届出テヲ命セルモノナリ

(二) 傳染病豫防ノ爲飲用井戸ノ構造ヲ定ムル件(大正十年 縣令第一號)

内容 ハ地域ヲ定メ専用井戸ニシテ病毒傳播ノ根ナシト認ムルモノノ外ノ飲用井戸ニ對シ
概要左記ノ如ク規定セルモノナリ

イ、井戸側ハ石材、煉瓦、木管、木材等ヲ以テ造リ、罅隙ノ部分ハ「コンクリート」ノ類ヲ以テ固ムルコ
ト

ロ、井戸周圍地表三尺ハ石材、煉瓦、コンクリート等ヲ敷詰メ且土管等不滲透質ヲ以テ三間以上
排水溝ヲ設クルコト

ハ、覆蓋ヲ設ケ且二尺以上石材、土管、木材等ヲ以テ二尺以上ノ井桁ヲ設クルコト
ニ、特殊ノ事情ナキ限り唧筒ヲ設クルコト

(三) 飲食物營業取締規則(大正十五年
縣令第四十五號)

内容 本令ニ飲食物營業ト稱スルハ通常飽煮、洗滌、剥皮等ヲ要セス直ニ飲食シ得ルモノヲ販
賣シ又ハ調製スルモノ等ヲ云ヒ、調製場、販賣場等ノ採光、換氣、飲食器等一客毎ノ煮沸又ハ清洗、
飲食物調製者ノ白衣着用、捕蠅裝置等ヲ規定セル外傳染性患者ノ業務從事ヲ禁止シ、尙警察官
署ハ傳染性疾患ニ罹リタル疑アル者ニ對シ指定醫師ノ健康證明書提出方ヲ命令シ得ルコト
ヲ規定セルモノナリ

九、傳染病豫防費

大正九年ニ終ル既往三ヶ年間ニ於ケル狀況左ノ如シ

年度	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正七年	二三、六四六・八一〇	三九三四・〇三〇	
大正八年	三七、〇二八・三三〇	六一五七・五五〇	
大正九年	七九、五一九・八七〇	一三、〇九六・五一〇	

十、傳染病院、隔離病舎等ノ設置及管理ノ狀況

市ハ傳染病院ヲ有ス

郡部町村數二〇五中病舎數一一七、二ヶ村聯合隔離病舎一、工事中ノモノ一、四ヶ村聯合計劃中ノ
モノアリ而シテ之カ管理ハ其ノ所在地町村長之ヲ爲ス

十一、傳染病院、隔離病舎ニ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徴收狀況

市ニアリテハ市ニ在住以外ノ者滞在中罹病シ病院へ收容セルトキハ相當之ヲ徴收スルモ、郡部
ニアリテハ之ヲ徴收セス

十二、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

將來ノ豫防施設ニ關シテハ今後一層醫師會其ノ他ノ團體ト連絡ヲ保チ且ツ衛生組合、衛生會、青
年會等ノ活動ヲ促シ、前記諸項施設ノ徹底ヲ期スルト共ニ更ニ糞便ハ一定時日間醱酵セシメタ
ル後肥料ニ使用セシムルコトト爲スヘク、計劃中ナリト云フ

第四 山形縣 (大正十年八月調査)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往三ヶ年ニ於ケル郡市別流行狀況

患者百名以上ヲ出セルハ大正七年ニハ西置賜郡ノミナリシカ、大正八年ハ山形市東置賜郡ノ一市一郡ニシテ、大正九年ニハ東置賜郡、東村山郡、南村山郡、北村山郡、西村山郡及山形市ノ五郡一市ニ及ヘリ

二、大正九年ニ既往三ヶ年ニ於ケル主要流行町村

西置賜郡小國本村ニ於テハ大正七年四月ヨリ九月ニ至ル六ヶ月間ニ患者七十六名ヲ發生セリ、是レ初發患者ノ診定遅延セルト河川水ヲ使用スル習慣アルヲ以テ、病毒水流ヲ介シテ傳播セルトニ因ルモノナリ

東村山郡中村ニ於テハ大正九年七月下旬ヨリ九月初旬ニ至ル約一ヶ月間餘ニ患者四十名ヲ出セリ、是カ原因ハ初發患者流行性感冒トシテ加療シ居リ、迷心ニ墜リテ醫師ノ診療ヲ求メサリシ爲メ診定ノ遅延セルニ基因スルモノト認メラル

東置賜郡二井宿村ニ於テハ大正九年六月下旬ヨリ同月十二月上旬迄ニ二十四名ノ患者發生ヲ見タリ、其ノ發生原因ハ河川ノ上流ニ於テ流水汚染セラレタルモノヲ下流沿道ノモノ使用シタルニ因ル

山形市ニ於テハ大正八年十一月ヨリ翌年一月ニ亘リ約三ヶ月間ニ患者百五十五名ヲ出セリ、蔓延ノ原因ハ病毒ニ汚染シタル下水溝ノ流水ヲ物品ノ洗滌ニ使用シタルニ因ル

二 豫防施設

一、患者早期發見方法

早期診斷ノ方法トシテ患者ノ尿尿若ハ血液等ノ検査ヲ施行シ又ハチフス診斷液ヲ製シ縣下各醫師ノ需ニ應シ無償配付ヲ爲セリ、又早期發見方法トシテ常時檢病的戸口調査等ヲ爲シツツアリ

二、材料検査ノ狀況

細菌検査所ハ本廳ニ一、東田川郡醫師會設立ノモノ一、飽海郡酒田町ニ一アリ、然レトモ事實上其ノ検査ニ從事セルハ縣菌検査所ノミニシテコレノミニハ相當設備ヲ有セリ
検査ハ主トシテチフス患者若ハ其ノ疑アルモノノ尿尿並ニ血液等ニ付之ヲ行セ病原體保有者ノ検査ハ必要ニ應シ時々施行ス、患者治癒後ノ細菌検査ハ施行セスト雖退院退舍後三十日間ハ上圖ノ都度石灰末ヲ撒布セシメツツアリ

三、消毒所、消毒斑ノ設置

特定ノ消毒所ナシト雖市町村立傳染病院又ハ隔離病舎ニ於テ器具機械ノ設備アリ、消毒斑設置ナシ、市町村ニ於テ使用セシ消毒藥ハ主トシテ石炭酸、クレゾール、生石灰ニシテ其ノ價格最近ニ於ケルモノ左ノ如シト云フ

大正六年度

四、七九三・四七〇

大正七年度

四、九四三・三五〇

大正八年度

五、四二五・一四〇

四、療養隔離ノ狀況

市部ニアリテハ稍完全ナル病院ヲ有シ患者ハ私立病院傳染病室又ハ市ノ傳染病院ニ入ラシム

郡部ニアリテハ縣下全町村數二百二十八、中目下患者ヲ收容シ得ル病舎數ハ一九一ニシテ郡部ニ於ケル患者收容率ハ大正七年八六%、同八年八七%、同九年九一%ナリ

五、飲料水、家用用水ノ改良狀況
縣下全般ニ亘リ漸次改善ノ歩ヲ進メ不良飲料水ニ對シテハ之カ改良ノ方法ヲ講シツツアリ、飲料水改善ニ因リ腸チフス患者ノ減少ヲ來セル一例ニ西山村郡谷地町アリ

六、豫防接種施行ノ狀況
大正元年以降引續流行地住民ニ對シテ專ラ督勵ヲ加ヘタル結果、大正九年十二月ニ至ル接種人員二四一、一四名ヲ算スルニ至レリ、然ルニ最初該接種ニ對スル一般民ノ諒解乏シク從ツテ往々之ヲ回避スルモノアリテ頗ル困難ヲ感セシモ漸次諒解ヲ得ルニ至リ、現時ニアリテハ實施上益シタル障害ヲ來ササルニ至レリ

七、蠅ノ驅除其ノ他豫防智識ノ涵養方法
豫防智識ノ普及ニ關シテハ大正二年以來各地ニ衛生展覽會ヲ開催シ又ハ幻燈會、講話會ヲ開キ更ニ大正九年ヨリ活動寫真、大正九年八月以降四十二回開催ヲ利用シテ專ラ衛生思想ノ宣傳ニ努メ、其ノ他「ボスター」ノ印刷配付等ヲ爲セリ

八、傳染病豫防費
大正九年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル狀況左ノ如シ

年度	種別	縣費支出額	國庫補助額	備考
大正七年	年度	二八、三六九・〇八〇	四、七二八・一八〇	縣費支出額ニ對シ六分ノ一國庫補助ヲ受ク
大正八年	年度	二七、〇八五・一四〇	四、五一四・一九〇	内四圓五十一錢 九年度ニ入ル
大正九年	年度	三六、五四六・一七〇	六〇九〇・〇二〇	

九、傳染病院、隔離病舎、隔離所等ノ設置及管理ノ狀況

縣下二市二百二十八ヶ町村中二百七ヶ所ノ市町村立傳染病院、隔離病舎ヲ有スルモ往々額取腐朽シテ使用ニ堪ニサルモノアリ、依テ之カ修理ヲ督勵シ一面ニ聯合市町村立隔離病舎建設ヲ獎勵シツツアリ、而シテ其ノ管理方法ハ所在地町村長ヲシテ管理者トシ費用ハ當該町村ノ人口若ハ戶數ニ比例シテ負擔額ヲ定ム

十、傳染病院、隔離病舎ニ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徵收ノ狀況
藥價其ノ他ノ費用徵收ノ規定ナシ

十一、豫防施設ニ關スル今後ノ方針
主トシテ上水道敷設ヲ獎勵シ尙豫防接種ノ普及方法ノ一策トシテ該費用ニ對シ從來五分内外ヲ補助シツツアリシヲ將來殆ント全部ニ近キ補助ヲ交附シタキ意見ヲ有ス、又本病ニ關スル思想啓發策トシテ衛生講話會ヲ從來ヨリ範圍ヲ擴張シ山間僻陬ノ地ニ對シ普ク開催セシメ、更ニ縣下一般ニ蠅取、デトヲ定メ、且衛生組合ノ覺醒活動ヲ促ス方法トシテ表彰規定ヲ設クル計劃ニテ該費用ハ既ニ豫算ニ計上セリ

第五 島根縣 (大正十年十月調査)

一 患者發生狀況

一、大正九年ニ終ル既往十ケ年ニ於ケル發生狀況

既往十ケ年ニ於ケル人口ニ對スル患者發生ノ割合ハ全國各年平均ヨリモ大正元年以降大正五年及大正七、八年ヲ除キテハ何レモ稍多ク殊ニ大正六年ニハ著シク多シ、本縣ニ於ケル患者數ハ大體ニ於テ年々減少ノ傾向アルモ大正九年ニ於テハ能義、簸川ノ二郡ニ於テ突發的ニ流行シ多數ノ患者ヲ出シタリ

二、大正九年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル市郡別流行狀況

市部ニ於テハ患者ノ發生稍尠シ、郡部殊ニ一定地方ニアリテハ年々相當多數患者ノ發生ヲ見ツツアリ、能義、簸川ノ二郡ハ大正九年ニ於テハ前年ニ比シ約四倍ノ發生ヲ見タリ、其ノ原因ハ腸チフス患者ヲ流行性感冒トシテ取扱ヒタル爲其ノ間ニ於テ病毒ノ散蔓シタルト殊ニ簸川郡ノ如キハ一部落ヲ通スルヤ小川ノ病毒ニ汚染セラレタルヲ使用シタルト又簡易水道ヲ用ユル者ニ於テ多クノ患者ヲ出シタルカ、コハ前記小川ノ地下ヲ通ツル水道土管ノ不完全ナリシ爲、病毒ノ管内ニ侵入セルニ因ルト云フ、那賀郡、隱岐島ニ於テハ年々減少ヲ示セリ、大原郡、仁多郡等ニハ年々患者發生極メテ尠シ

三、大正九年ニ終ル既往三ケ年ニ於ケル主要流行町村

既往三ケ年ニ於テ二ケ年以上引續キ患者二十人以上ヲ出シタルハ隱岐島隱地郡海土村ナリ、年々同一地方ニ多發スルハ其ノ地方ニ於ケル豫防措置ノ徹底セサルニ因ルヘシ、市部ニ隣接セル町村ニ患者殊ニ多發スル等ノ關係ハ之ヲ見ス

四、今年(大正十年)ニ於ケル流行狀況

二月ヨリ九月迄ノ患者數ハ昨年同期ニ比シ稍少ク大正八年ニ比シ著シク尠シ、今年ニ於ケル流行ノ主ナル原因ハ患者ト交通及家族傳染ニシテ何レモ總數ノ三分ノ一宛ヲ占ム、以テ一般衛生思想ノ乏シキヲ知ルヘシ

二 豫防施設

一、患者早期發見方法

大正九年ニ於ケル檢病的戸口調査、健康診斷ニ依ル患者ノ發見ハ全患者ノ約八%ニ過キス、醫師會ト協定シテ早期發見ノ方法ヲ講シタルカ如キコトナキモ、本年七月ヨリ縣令ヲ以テ本病疑似症ニ對シテ法ノ全部ヲ適用スルコトトナレリ、之ニ依リテ相當効果ヲ收メ得ヘシ

二、材料檢査ノ狀況

細菌檢査所ハ三ヶ所アリ、縣廳内、那賀郡濱田町及隱岐島西郷町之ナリ、一般醫師ノ依頼ニモ應ジ居レリ

三、病原體保有者ノ取締

患者治癒後ノモノ即チ退院退舍セシメラル者ハ其ノ時期極メテ早ク解熱後既ニ三四日ニシテ退院退舍セシム、其ノ際糞便ヲ採取シ檢査ノ上若シ病原體ヲ證明セル時ハ再ヒ入院又ハ入舍セシムト云フ、然レトモコハ松江市及那賀郡濱田町ニ於テ勵行セラレ居ルノミニシテ他ノ町村ニアリテハ多クハ町村ノ負擔大ナル關係上町村ニ於テ之レヲ避クル傾向アリテ自宅ニ隔離ス

ルコト多シ、又尿尿ハ消毒セシムト云フモ如何程迄徹底シ居ルヤ不明ナリ
健康病原體保有者ニ對スル取締モ入院隔離ノ狀況等前記ノモノト略同様ナリ
四、消毒所、消毒班ノ設置

五、療養隔離ノ狀況

傳染病中「コレラ」赤痢發疹チフス及「ペスト」患者ハ之ヲ病院病舎へ收容スルヲ原則トスルモ其ノ
他ノモノハ一定ノ條件ヲ具備シ居ラサルモノノミ入院入舎セシムルコトナリ居レリ而シテ
腸チフスノ場合ニ於テ自宅療養患者數ト病院病舎收容患者數トヲ比較スルニ大正九年ニ於テ
總患者ノ前者ハ約六割後者ハ約四割ニ當レリ

六、飲料水、下水ノ改良狀況

上水道（松江市、簡易水道ハ相當獎勵シツツアリテ目下七ヶ所ニ之ヲ有ス、井戸ハ改善ヲ加ヘシ
メテ顯著ナル成績ヲ收メ得タル事例ヲ有ス

七、豫防接種施行ノ狀況

縣トシテハ之ヲ獎勵セシコトナク任意ニ受ケシムルコトトナリ居レリ

八、蠅驅除ノ狀況

見ルヘキモノナシ

九、豫防智識ノ涵養方法

衛生講話會及衛生展覽會ニ相當努力ヲ認ム、然レトモ「ボスター」豫防心得書ノ如キ印刷物配布ノ
方法ヲ採リタルハ尠シ
十、傳染病豫防法令ニ關スル特殊縣令、訓令、通牒等特殊ナルモノト思惟スヘキモノ左ノ如シ
飲用井泉取締規則（明治二十年
縣令第八十八號）
内容ハ私用公用ヲ問ハス總テ飲用ニ供スル井泉ニ對シ地域ヲ定メ井戸側、周圍附屬下水覆蓋、浚
疏、洗滌場及屠場、墓地等ヨリノ距離等ヲ規定セルモノナリ
十一、傳染病豫防費
大正九年ニ終ル既往三ヶ年間ニ於ケル狀況左ノ如シ

縣 費	支 出 額	國 庫 補 助 額	備 考
大 正 七 年 度	二八、一二九・九〇	四、七四七・三〇	
大 正 八 年 度	三九、三四一・〇五〇	六、六六一・二四〇	
大 正 九 年 度	三五、四八四・〇五〇	五、九一四・〇〇〇	

十二、傳染病院隔離病舎設置ノ狀況

傳染病院九、隔離病舎百三十六、而シテ病院病舎ヲ有セサル町村ハ百三十五アリ

十三、傳染病院隔離舎ニ入ラシメラレタル患者ノ食費、藥價徵收狀況

各町村ニ依リ異ルモ赤貧者ヲ除クノ外ハ概ネ之ヲ徵收シツツアリ

十四、豫防施設ニ關スル今後ノ方針

(一) 患者發生ノ場合ハ其ノ部落民全部ノ糞便検査ヲ施行スルコト並ニ全部ニ對シ便所ノ消毒ヲ